

嘉納治五郎IOC委員就任100周年記念事業

国際青少年スポーツセミナー

～Olympic Movement for Youth～

(スポーツコーチサミット2009)

開催要項(2009,8,20)

1 開催趣旨

本年、東京高等師範学校(現筑波大学)の校長を務め、我が国の学校教育と非常に縁の深い嘉納治五郎氏が、アジア初のIOC委員に就任して100年を迎える。教育者でもあった嘉納氏の教えであるスポーツによる人格の陶冶という理念は、現在でもスポーツ界で話題となることであり、ジャック・ロゲIOC会長の提唱した青少年のオリンピック参加と重なる点が多い。

また、2010年には記念すべき第1回ユースオリンピック大会がアジア(シンガポール)で開催されることから、青少年におけるスポーツの役割について考えることは、大変重要であるといえる。

そこで、「青少年とスポーツ」、「青少年とアンチ・ドーピング活動」をテーマに、WADA関係者、国内スポーツ関係者等を対象に国際セミナーを開催し、これからの青少年スポーツ教育の在り方について参加者相互の理解と連携を深めるとともに、我が国のオリンピック・ムーブメントの推進を図る。

併せて、WADA関係者をはじめとする海外招聘者等に対し、2016年オリンピック・パラリンピックの東京招致をアピールする機会とする。

- 2 主 催 (財)嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター
文部科学省
東京都
(独)日本スポーツ振興センター
(財)日本体育協会
(財)日本オリンピック委員会
(財)日本アンチ・ドーピング機構
(財)日本プロスポーツ協会

- 3 協 賛 (財)ミズノスポーツ振興会

- 4 協 力 日本テレビ放送(株)

- 5 期 日 平成21年9月11日(金)

- 6 会 場 ANAインターコンチネンタルホテル東京
東京都港区赤坂1-12-33 TEL:03-3505-1111

7 日 程

9:45 10:10 10:30 10:45 11:35 13:00 14:30 14:45
～10:05 ～10:25 ～10:40 ～11:30 ～12:55 ～14:30 ～14:45 ～16:35

内 容	受付	ビデオ 視聴 (15)	オープ ニング (10)	基調講演 (45)	休憩	シンポジウム I (90)	休憩	特別講演 シンポジウム II (110)	解散
--------	----	-------------------	--------------------	--------------	----	---------------------	----	-------------------------------	----

8 内 容

(1) ビデオ視聴(嘉納治五郎の功績)

嘉納治五郎氏は49歳でアジア初のIOC委員となり、77歳で生涯を閉じるまで、オリンピックに人生を捧げた。嘉納氏のIOC委員就任から、ちょうど100年目にあたる今年5月、「嘉納治五郎記念国際スポーツ研究・交流センター」が設立され、嘉納氏が掲げた理念のもと、オリンピック教育、アンチ・ドーピング、スポーツを通じた国際交流・協力・援助等が推進される。その理念とは、柔道の修行を通じて身につけた力のすべてを社会のために使う「精力善用」、己の技を磨かせてくれた相手とともに成長する「自他共栄」という考え方である。そしてそれは、スポーツを通じて肉体と精神のバランスのとれた人間を育てること、人種や宗教などの壁を乗り越え相互理解を深めることが世界平和につながると信じてやまないクーベルタンのオリンピズム(オリンピックの精神)と合致していた。

嘉納氏の功績をビデオで紹介し、スポーツのもつ教育的意義を確かめる中で、これからのユーススポーツのめざす方向について、参加者全員に問題提起する機会としたい。

(2) オープニング

挨拶(予定) 嘉納治五郎記念スポーツ研究・交流センター会長
文部科学大臣

他

(3) 基調講演

演 題 「青少年とオリンピックムーブメント」

ゲストスピーカー Sir Clive Woodward(クライヴ ウッドワード卿)

(イギリスオリンピック委員会ハイパフォーマンス・ディレクター、Mission 2012 UK Sport Board)

<経歴>1978年ラフバラ大学 卒業

ラグビー選手として、Harlequins、Leicester Tigers、Manly等にてプレー

1980～84年は、ラグビー・ユニオンのイングランド代表選手として活躍 (Cap21)

1990年より、イングランドU-21代表チーム等の監督を経て、1997年よりイングランド代表監督

2003年ラグビーワールドカップでイングランド代表監督として優勝

Sirの称号を授与される。イギリス年間コーチ最優秀賞受賞

2008年北京オリンピック・イギリス選手団副団長

2010年バンクーバーオリンピック・イギリス選手団副団長

(4) シンポジウム I

テーマ 「青少年とオリンピックムーブメント ～選手強化の視点から～」

ゲストスピーカー: Sir Clive Woodward (クライヴ・ウッドワード卿)

コーディネーター : 勝田 隆 (JOCロンドン対策プロジェクト委員)

パネリスト : 上村 春樹 (JOC選手強化本部長)

: 塚原 光男 (JOC選手強化副本部長/ロンドン対策プロジェクト委員)

我が国のオリンピックムーブメントは、嘉納治五郎氏が1909年にIOC委員に日本人として初めて就任してから始まり、日本オリンピック委員会、日本体育協会、文部科学省が連携し、活力ある健全な社会の形成に向け、スポーツを通じた青少年の育成と、競技力の安定的な向上を図ってきた。

今回のシンポジウムでは、2012年ロンドン大会ならびに2016年オリンピック招致に向けた我が国の選手強化の取組と、ロンドン大会を自国で開催するイギリスオリンピック委員会の取り組みとを比較し、オリンピックや選手強化が国民にもたらすレガシーについて改めて考え、それぞれの立場から意見交換を行う。

(5) シンポジウムⅡ

テーマ 「 青少年とアンチ・ドーピング 」

特別講演: Dr. Ismail Jakoet (イスマイル ジャコエット博士)

南アフリカ・アンチ・ドーピング機構 理事(設立メンバー)

<経歴> ケープタウン大学院、プレトリア大学院 卒業

2000年シドニーオリンピック&2001年世界陸上にてWADAインディペンデント・オブザーバー

南アフリカ ラグビー・ユニオン優勝チーム主治医師

世界アンチ・ドーピング機構(WADA) メンバー

コーディネーター : 浅川 伸 (財団法人日本アンチ・ドーピング機構 事務局長)

シンポジスト : 赤間 高雄 (早稲田大学スポーツ科学学術院 教授)

: 山澤 文裕 (財団法人日本アンチ・ドーピング機構 評議員)

: 田辺 陽子 (財団法人日本アンチ・ドーピング機構 理事・アスリート委員長)

アンチ・ドーピング活動は、単にドーピング防止規則違反を犯した者を取り締まることが目的ではない。アスリートのみならずスポーツに係わる全ての関係者が、スポーツの価値や社会におけるスポーツの位置づけ等を再認識することを促し、スポーツが本来持っている価値や魅力を維持・保全していく環境を構築することが本質的な目的である。

特に、人間が成長していく過程において、物事に対する価値観が醸成される年齢にあたる成若層のアスリートに対しては、スポーツの価値をきちんと認識させるための教育啓発活動を展開することにより、アスリートにスポーツの魅力を認識させたうえで、その素晴らしいスポーツを守るといった価値観が浸透していくことが期待される。

また、発育期にある若年層のアスリートについては、ドーピング防止規則で禁止されている薬物が身体に及ぼす副作用などについての情報提供をおこなうことも重要な要素となる。

これら様々な要素について、アンチ・ドーピング活動に係わっている有識者からそれぞれの立場での問題意識の提示を受けるとともに、青少年におけるアンチ・ドーピング活動のあるべき対応について意見交換を行う。

9 参加申込みについて

参加希望者は、所定の参加申込みをFAXにて以下のとおり申込む。

なお、参加受付は、定数(300名)になり次第締切りとする。(定数締切りにより参加できない場合のみ、その旨事務局より申込者に連絡する。)

(1) 申込書送付先

① (財) 日本オリンピック委員会強化スタッフの方

(財) 日本オリンピック委員会強化部

FAX:03-3481-2282 TEL:03-3481-2230

② (財) 日本体育協会公認スポーツ指導者の方(①以外の方)

(財) 日本体育協会指導者育成課

FAX:03-3481-2284 TEL:03-3481-2226

③ 国立スポーツ科学センターj-net会員の方

国立スポーツ科学センタースポーツ運営部研究協力課

FAX:03-5963-0244 TEL:03-5963-0202

④ (財) 日本アンチ・ドーピング機構公認検査員の方

(財) 日本アンチ・ドーピング機構事務局

FAX:03-3907-3713 TEL:03-3907-3712

⑤ 上記以外の方

文部科学省競技スポーツ課

FAX:03-6734-3793 TEL:03-6734-2999

